



福井県小浜市

福井県小浜市は若狭のほぼ中央に位置し、京都の真北で京都から一番近い日本海のまちです。小浜を含む若狭一帯は、平城京・平安京の時代から、朝廷に特別な海産物を献上する「御食国（みけつくに）」でした。小浜が面している若狭湾は、特に春から秋にかけては比較的穏やかな、たおやかな海で落ち着く、癒しの海です。古来、大陸からの船が入ってくる海でもあり、小浜は都と大陸文化を結ぶ湊町となりました。都と大陸文化を結ぶ結束点として、御食国として重要だった小浜には、奈良～平安時代に多くの寺社仏閣が創建され、現在でも人口比率トップクラスの寺社仏閣が残っています。

御食国

「御食国（みけつくに）」とは、古代、皇室や朝廷にそれぞれの地域の特色ある豊かな食材を納めた国のことで、万葉集においては、伊勢・志摩・淡路などが御食国として詠われるとともに、若狭については、平安時代に編集された「延喜式」に、御食（＝天皇の食料）を準備する国、贄（にえ＝神様に備える神饌など）を納めた国として、志摩などと共に記されています。

若狭からは、塩や海産物（タイ、イガイ、イワシ、シタダミ、ホヤ、ウニ、アワビ、カマスなど）の加工品を納めたと言われています。

鯖街道

昔々、小浜は京から最も近い港の一つとして、海産物などの豊かな食材を届け、京の食文化を支えていました。ある時期になると多くの鯖が運ばれるようになったため、小浜から京へ繋がるいくつかの道を「鯖街道」と呼ぶようになります。

